

千葉県言語聴覚士会と日本言語聴覚士協会の連携に関するアンケートの結果

「千葉県言語聴覚士会と日本言語聴覚士協会の連携に関するアンケート」の結果をご報告いたします。

I. 回答者数：45人

II. アンケート結果

Q.1 あなたは現在、日本言語聴覚士協会の会員ですか？

会員である：40人

会員でない：5人（近々会員になる予定：3人）

Q.2 千葉県言語聴覚士会と協会の連携のあり方について、現時点でどのようにどのようにお考えですか？（複数回答あり）

支部化（仮称）賛成：20人

支部化（仮称）には反対だが何らかの形で連携は必要： 17人

連携をとる必要はない： 1人

現状がよくわからない： 11人

Q.3 当県士会と協会との連携のあり方を検討する委員会の委員立候補と推薦

立候補：なし

推薦：5名

Q.4 その他のご意見（一部抜粋）

1. 委員会の構成は医療、福祉、教育の3領域から平等に選出してそれぞれの立場を尊重して検討・議論していく場と設定してほしい
2. 支部になることに賛成というよりは協会と連携をとることに賛成です。協会に意見したいときなど（要望など）を県士会の方でまとめてくださると言いやすいかなと思います
3. 日本言語聴覚士協会が本部として行く末充分機能し日本中のSTを統合して成長していくことが、果たしてできるのだろうか？と一抹の不安を感じております。なんとなく結集力に欠けるようなきがして、以前のST協会ほど近いものを感じませんので現状では、基本的に2つ別個の2大組織くらいにとどめておいた方がよさそうに思えます

す。詳しいことはわかりません。

4. 国家資格になり、PT,OT 並の保健点数が認められるようになるまでの長い長い道のりを思うとき、職能団体として、まとまって動いていくことの重要性を強調したいと思います。目先の損得よりも、先を見据えてパイオニアとの自覚をもって考えるべきです。社会的に ST の認知度が上がることが結果的に多くの言語障害児者の福祉につながるとおもいます。
5. 支部になることでのメリットデメリットが不明確なため現時点でよくわからない。協会・県士会それぞれに、そこでしかできないこと、そこではできないことがあるとおもいます。うまく役割分担できればよいのではないのでしょうか。
6. 支部化にははんたいしないが、支部になったときの会員のこと、支部、県士会にはいっていても協会に入っていない人の扱いが難しいと思われる。時間をかけた話し合いが必要だと思われます。
7. 下部組織となった場合の利点と欠点、特に協会による”しぼり”がどの程度考えられるかが全く想像がつかない。県士会が自発的に全国組織の下部組織になる必要を感じての議案ならば賛成でしたが、日本言語聴覚士会からの働きかけゆえならば設立趣旨がことなるので反対ですが、「議案の承認イコール支部になることではない」との補足。県士会の「連携のあり方を検討する」との方針。この2つをおさえての委員会の決定であれば異は唱えません。ご活発な討議が行われる事を祈りおります
8. 県士会の活動をぜひ全国レベルに広げて連携し、各地の情報などが収集できたらと思っています。
9. 連携をとることが大切と思いますが、これまでの県士会の活動をよく把握しておりませんので協会の下部組織になるか決めかねる
10. 協会の支部になるとどのような義務があるのか具体的にはわかりませんが、協会を何らかの形で支援(?)していく必要性はあると感じます。事務局の仕事が増えて大変だとおもいますが、しっかり連携して、協会からの全国の情報を県士会の会員にも積極的に伝えていってほしいと思います。
11. 協会の活動は一人一人の会員 (ST) の積極的参加がなければ成り立たないので地域レベルで参加を促すための役割を県士会が担うのは意味があることだと思う。また地域レベルの活動を協会がバックアップするなど連携を密にすることで、より有機的に会員やクライアントの利益となる活動がしやすくなるとおもいます。
12. 支部になることでのメリット、デメリットがわかりません。
13. 他地域の県士会との情報交換や連携 (例えば、研修会の講師のやりとりなど) がスムーズにできるようになるといいと思う。そういったことのために支部という形が望ましいのであれば、支部という形にしてもいいと思う。

14. 総会を欠席させて頂いた為、「下部組織」のニュアンスが、理解できません。一応「反対」とはいたしました但各県士会の活動の独自性も保たれるのであれば、有資格者団体を全国的に組織することは意義のあることと感じています。
15. 支部になることのメリット、デメリットがよくわかりません。また、支部ではない別の形態で連携を図るとしたらどのような形態がありえるのか、その場合のメリット、デメリットはどうなるのか、それもよくわかりません。

ただ、”支部として位置づけられるの気が進まない”理由は、「意志決定権」が千葉県言語聴覚士会（以下、当県士会）としても、日本言語聴覚士協会（以下、RST 協会）の一会員としても、制限されるのではないかと危惧するからです。

地域職能組織代表者会議が「代議員制度」としての「決定権」を持った場合、当県士会が少数派であった時には、不承不承その決定に従わざるえなくなるでしょう。

また、当県士会が地域職能組織代表者会議において多数派であっても私自身が当県士会の中で少数派であったとき、私は自分の意見を他県の多くの RST 協会会員に聞いてもらう機会を得にくくなります。一人の RST 協会会員として、重要な活動方針の決定に直接参加できる機会を失いたくありません。

「全国と地域にはそれぞれの役割がある。補い合う関係として～」という考え方は理解できます。ただし、各々の役割を具体的に明らかにしてから議論を進めて頂けないと、無条件には賛成できません。特に、「全国」としての RST 協会が「地域」としての地域職能組織の独自性にゆだねて差し支えないと考えているのは、あるいは独自性にゆだねるのは不都合であると考えているのは、どのような活動に関してなのかを明らかにしていただきたいです。

”支部”としての地域職能組織代表者会議が、地方の意見や実態を詳細に RST 協会執行部に伝え多くの RST 協会会員の意見を反映した活動を行いやすくするための諮問機関、また執行部の見解を解説する連絡機関に止まるなら、”支部化”することに（名称は変えるにしても）大方の RST 協会会員の賛同を得られるのではないのでしょうか？

ただしその場合でも、地域職能組織から非 RST 協会会員を排除する形態での連携には反対です。現在当県士会に入っている非 RST 協会会員を排除したり、県士会員としての権限に制約を設けたりすることは、地域職能組織としての活動力を低下させることとなります。地域職能組織としての活動力が低下する事は、RST 協会にとっても不都合なのではないのでしょうか？

会費（RST 協会の活動不足？）の件については、協力金、賛助金とか援助金、事務代行手数料など適当な名目で地域職能組織から RST 協会へ、あるいは RST 協会から地域職能組織へ、融通をつけることは容易であり、連携を妨げるものではないと思います。

ご協力ありがとうございました。